



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね分校による地域支援～

しろがね分校では専門アドバイザーが中心となり、前橋市・玉村町・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達気になる子供達についての継続的な支援を行っています。

9月24日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	特別支援 学校	その他	計
件数	104件	89件	41件	3件	15件	252件

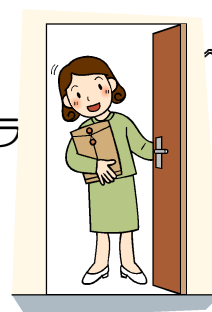
(その他は保護者や関係機関からの来校相談や電話での相談)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。

今年度、3回ほど訪問させていただいた小学校の中学年のクラス(通常学級)を紹介します。

1学期当初と比べて、子供達がとても落ち着き、学習に意欲的になって、参観している私も訪問ごとに感心しています。

どのように先生の支援が充実したかをお伝えしますね。



そのクラスは気になる男児が4人いました。教師の説明は聞いてない、手悪さをしているか隣の子と話している、問題を解かせてもできないという相談内容で、そのうちの1人は友達をたたくという行動もありました。

担任の先生はとても熱心で、説明の途中も4人のところに行きかけて声をかけたり、活動を促したりするなど、こまめに動き、1時間の中でそれぞれ5～6回は関わっていました。さらに、1つの指示をしたら、それができているかの確認をクラス全体に対してしていました。それだけでも、他の先生が見たらすごいと思われると思いますが、さらなる改善を求め、相談がありました。

そこで、私が提案した方法を紹介します。

人間の心理として、クラスのお兄さんが静かに集中して学習していれば、1人ではふざけることはなく、つられて学習に取り組むものです。分かることの楽しさを体感すれば、子どもは変わっていきます。

そこで、クラス全体への支援と対象児4人の支援の双方を提案しました。

○クラス全体に対して

- ①授業のテンポを早くする。(問題を解いて答えあわせをする時間までが長くて、遊びの時間ができてしまう)
- ②「書いた人」「また、書いていない人」と挙手をさせたり、全員で音読させたりして、休憩の時間を極力作らないようにする。
- ③音読がそろっていなかったり、教師に注目していなかったりした時には、やり直しや注目を促す。
- ④友達を強い口調で注意した子どもを注意する。(対象児が注意されることが多いが、友達から注意を受けるとトラブルになる。教師のつもりで他人を注意するのは他児のためにも良くない。)

○対象児に対して

- ①プリント学習において、左半分の問題を解き終わった後、「もうやりたくない」と言った本児に、「あと〇問やって」と具体的に指示する。
- ②悪くない行動以外はこまめに褒める。(他児は当然にできることでも、対象児にとっては頑張っているから)
- ③対象児の行動に反応しない子どもを隣の席にするなど座席を工夫する。

○その他に先生の工夫した点として、

- ・黒板に文字を書き出すときに「鉛筆持っているよね」とノートに書こうとしているか、確認する。
- ・良い行動は名前を出して褒め、教師は全員をよく観察していることを示す。
- ・問題を解かせるときには、例を出したり、同じような問題を出して指名して子供達に答えを出させ、理解力が少し弱いお子さんにも分かるようにしている。

その結果、2学期になり、授業中に「できたよ」「書けたよ」と担任に告げる対象児の姿が多く見られ、教師に褒められる嬉しさと学習が分かることの楽しさを体得した対象児達は、集中して取り組んでいました。さらに、授業外でのトラブルも減り、成長が他クラスの先生方からも評価されるようになりました。

担任の先生の頑張りが実りましたね。

気になるお子さんがいましたら、ぜひ、お声がけください。
先生方のお役に立てれば嬉しいです。

群馬県立渡良瀬養護学校しろがね分校

専門アドバイザー 尾岸純子

電話 027-268-6111

